

白告示済み化学物質における人健康影響の再評価について

平成 18 年 1 0 月 2 7 日

告示済み化学物質審査シート

官報公示 整理番号	1-1224	CAS No.	21351-79-1
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名 称：水酸化セシウム 別 名：－ 分子量：149.91 分子式： <div style="text-align: center;">CsOH</div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames【審 議済み】	企業内情報		
染色体 異常【審 議済み】	企業内情報		
28 日間 反復投与 【審議済 み】	企業内情報		
90 日間 反復投与 【審議済 み】	投与方法	強制経口投与 溶媒：精製水	
	純度	99.9% (塩化セシウムで実施)	
	用量	3 投与群(10, 50, 250 mg/kg)	
	死亡	50♂ (1/10)、250♂ (6/20)	
	NOEL	10 mg/kg/day 未満	
推定根拠	組織的所見 (心臓一局在性心筋変性・胸腺萎縮：10 以上♂250♀)		

他の毒性

体重↓・摂水量↑：250♂
一般状態（痙攣：250♂♀、易刺激性：50以上♂♀、一過性自発運動亢進：250♀）
尿検査（尿比重↓・Na↓：250♂、K↓：250♂♀、白血球・小円形上皮細胞↑：50以上♂、精子数↓：250♂）
血液学的検査（Ret↑：50以上♂250♀、RBC・Hb・Ht↓・WBC↑：250♂♀、PT・Platelet↑：250♀）
血液生化学的検査（K↓：50以上♂♀、CRN↑：50以上♂250♀、GOT↑・GPT↑・BUN↑・Glu↓・Alb↓・A/G ratio↓・IP↑：250♂♀、Na↑：250♂、ALP↑・Ca↑・Cl↓：250♀）
絶対重量（胸腺↓：250♂♀、心臓・肝臓・精巣上体↓：250♂）
相対重量（肝臓↓：50以上♂、胸腺↓・腎臓↑・副腎↑：250♂♀、精巣上体↓：250♂）
組織学的所見（下顎リンパ節—形質細胞過形成：250♂♀
下顎腺—腺房萎縮・導管上皮顆粒の減少・舌下腺腺房萎縮：250♂♀
甲状腺—濾胞拡張：50以上♂250♀
副甲状腺—上皮小体主細胞肥大：250♂♀
胸 骨—骨梁減少：250♂♀
骨髓顆粒球系造血亢進：50以上♂250♀
肺 —泡沫細胞集簇：250♂♀
胃 —腺胃粘膜びまん性過形成・腺胃限局性炎症細胞浸潤・腺胃粘膜びらん：250♂♀
膵 臓—膵腺房細胞様細胞 250♂、
十二指腸—粘膜上皮肥大：250♂♀
肝 臓—肝細胞萎縮：250♂、
肝臓髓外造血：250♀ 脾 臓—赤脾臓萎縮：250♂、
髓外造血：250♀
腎 臓—好塩基性尿細管・腎盂内結晶物・尿管拡張・尿管粘膜上皮過形成腎盂炎：50以上♂、
皮質遠位尿細管上皮肥大・250♂♀、
髓質外帯遠位尿細管上皮腫大・腎盂粘膜上皮過形成・腎盂炎：50以上♂250♀、
膀胱—びまん性粘膜移行上皮過形成：50以上♂、
びまん性腺房萎縮 50以上♀250♂
下垂体—中間葉細胞肥大 50以上♀250♂
副 腎—副腎—髓外造血：250♀、
束状帯細胞肥大：250♂♀ 球状帯細胞脂肪滴増加：50以上♀250♂、
ハーダー腺—腺房細胞びまん性肥大：50以上♀250♂、
膀胱—膀胱粘膜出血：250♂、
精 巣—精巣びまん性精細管萎縮・局在性精細管萎縮・精子低形成を伴う精細管拡張：250♂
精巣上体—精子数の減数：250♂、
坐骨神経—変性：250♂♀
大腿骨—骨梁減少：250♂♀、
骨髓顆粒球系造血亢進：50以上♂250♀
筋肉—大腿筋変性：250♂♀、
皮 膚—潰瘍：250♂♀）
回復期：
血液生化学的検査（Chol・TG・TP↓：250♂）
絶対重量（精巣↓：250♂）
組織学的検査（腎臓—皮質遠位尿細管拡張：250♂♀）

回復性	<p>RBC↓、K↓・BUN↑・Glu↓・Alb↓・A/G ratio↓、 尿中白血球・小円形上皮細胞↑、尿中精子数↓ 肝↓・精巣上体↓・腎臓↑・副腎↑ 下顎リンパ節—形質細胞過形成 下顎腺—腺房萎縮・導管上皮顆粒の減少 甲状腺—濾胞拡張 副甲状腺—上皮小体主細胞肥大 心臓—局在性心筋変性 胸骨—骨髓顆粒球系造血亢進・骨梁減少 肺—泡沫細胞集簇 胃—腺胃粘膜びまん性過形成・腺胃粘膜びらん・腺胃限局性炎症細胞浸潤 膵臓—膵腺房細胞様細胞 十二指腸—粘膜上皮肥大 腎臓—皮質遠位尿細管上皮肥大・髓質外帯遠位尿細管上皮腫大・腎盂炎・膀胱結石を伴う尿管拡張 副腎—球状帯細胞脂肪滴増加 膀胱—びまん性粘膜移行上皮過形成 精巣—びまん性精細管萎縮・局在性精細管萎縮 精巣上体—精子数の減数 座骨神経—変性 大腿骨—骨髓顆粒球系造血亢進 皮膚—潰瘍</p>
人健康影響判定根拠	企業内情報
備考	28日間反復投与毒性試験及び90日間反復投与毒性試験は、塩化セシウムにて実施されている。